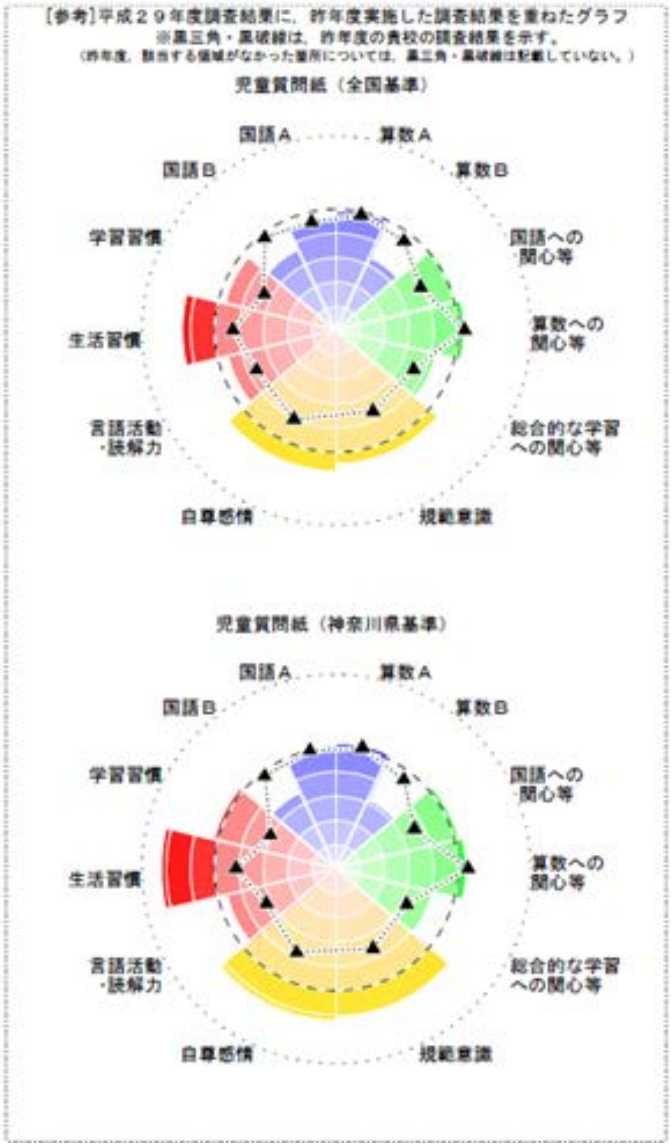
平成２９年度　全国学力・学習状況調査　上川井小学校６年生の結果

１　チャート及び教科別学習状況調査結果

	児童数
平成２９年度	16
平成２８年度	21

［児童生徒］



		国語Ａ（知識）	国語Ｂ（活用）	算数Ａ（知識）	算数Ｂ（活用）
上川井小	平均正答率	71%	45%	78%	31%
神奈川県	平均正答率	73%	57%	77%	46%
全国	平均正答率	74.8%	57.5%	78.6%	45.9%

国語Ａ（知識）
「書く能力」「読む能力」の正答率が全国平均を上回っている。「話す・聞く能力」「言語についての知識・理解・技能」の二観点は、全国平均を下回っている。目的や意図に応じ、文章の内容を読み取ることは優れている。しかし、答え方が選択式の場合は、よくできているものの、国語Ｂ（活用）になると、文章記述ができない実態がある。また、漢字を読むことは、概ねできつつあるが、書き取りの力が弱いことも分かった。

算数Ａ（知識）
「図形」「量と測定」の領域の正答率が全国平均を上回っているが、「数と計算」「数量関係」の領域では、全国平均をやや下回っている。二つの数の最小公倍数を求めること、正五角形を書く際の中心の角度を正しく求めることについて、特によくできていた。分からない数を□にして、問題場面を除法の式に表すことについては、苦手な児童が多いことが分かった。

国語Ｂ（活用）	算数Ｂ（活用）
「国語への関心・意欲」「話す・聞く能力」「書く能力」「読む能力」の四観点全てにおいて、全国平均を下回っている。特に課題として挙げられるのは、目的や意図に応じて、文章全体の構成を考えて自分の考えを書くことである。 　しかし、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえることはよくできていた。	「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」全ての領域について、全国平均を下回っている。「もとにする量」と「割合」から「比べられる量」を導き出すことはよくできていた。思考の流れを書き表したり、グラフや表から読み取れることを使って立式する過程を記述したりすることに関して、課題が多いことが分かった。

昨年度から取り組んできた「上小ホームワーク」が、国語、算数ともに、基礎的な知識の定着につながったと考えられる。しかし、活用の場面では、応用問題に慣れていないことや、問題文が複雑なため、解く前にあきらめている児童もいるように感じた。算数での活用力や、国語での「書く力」をつけるために、図や数直線を使って自分の考えを説明する活動を多く取り入れ、順序立てて思考する習慣をつけていきたいと考える。また、文章の構成メモを作り、起承転結を考えながら文を組み立てる活動を継続し、文を書く際の苦手意識を少なくしていきたいと考えている。今後も、児童の意欲をより高めながら、上小ホームワークや朝学習の時間を利用し、基礎的な力をつけるとともに、応用問題にも取り組み、複雑な問題にも慣れるようにしていきたい。

２　生活習慣　学習習慣

	上川井小学校	全国
朝食を毎日食べている児童	100%	95.4%
毎日、同じくらいの時刻に寝ている児童	81.3%	79.8%
毎日、同じくらいの時刻に起きている児童	100%	91.2%
１日あたり、2 時間以上ゲームをしている児童（テレビ、スマートフォン、携帯式のものなども含む）	62.6%	31.1%
１日あたり､2 時間以上携帯電話やスマートフォンでメール、インターネットをしている児童	25.1%	12%
平日に２時間以上家庭学習をしている児童	12.5%	27.1%
休日に２時間以上家庭学習をしている児童	12.6%	24.6%
１日あたり、１時間以上読書をしている児童	12.6%	18.8%
友達の前で、自分の考えや意見を発表することが得意な児童	31.3%	52.2%
自分にはよいところがあると思っている児童	68.8%	77.9%

食事や睡眠など、保護者の協力により、よい生活習慣が身についている児童が多いことが分かった。

しかし、テレビの視聴時間、ゲームをしている時間、メールやインターネットをしている時間が全国平均を大きく上回り、その分、家庭学習をする時間が全国平均を下回っている。目の健康を守る観点や、集中力を高め、学力を向上させる観点からも、家庭の中でのルールを再確認したり、家での過ごし方を家族で話し合ったりする機会にして頂きたいと考える。

また、自分に自信がなく、人前での発表をためらう児童や自己肯定感が低い児童も全国平均より多くいることが分かった。家庭と協力し、達成感や充実感を感じる活動を取り入れ、できた時には大いに褒め、少しずつでも自信をもてるよう、自己肯定感を高められるよう意識していきたいと考える。